

令和4年度 全体研修計画

I. 研究主題について

1. 研究主題

共に学び、自ら探究する子どもの育成

2. 主題設定の理由

(1) 学校目標から

豊かな心で、たくましく生きる一っ子の育成

「笑顔」と「拍手」150
I GO (自分が), We GO (全員で) 発信!
自分大好き 学校大好き 我孫子大好き 一っ子

(2) 目指す児童像から

自他 そして 我孫子を大切にできる子ども

(3) 学校経営の重点から

150周年を 一っ子の力(知・徳・体)を伸ばす チャンス ととらえ常に意識させる

個別最適・協働的な視点で主体的・対話的で深い学びの研究をさらに推進し、成果を発信する。
「地域に誇りをもてる一っ子」を育てる。その為、手賀沼や鳥などの自然、文人や芸術家など文化等の恵まれた地域教材を生かしながら、カリキュラム・マネジメントを行い、「主体的・対話的で深い学び」の研究をさらに深め発信する。

(4) 児童の実態から

① 全国学力・学習状況調査の結果から

国語では、全国平均正答率と比べ、上回っていた。基礎・基本の力、活用の力がよく身に付いていると判断できる。「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」において平均正答率が高かったことから、思考力・判断力・表現力等の資質・能力がどの領域においてもよく身に付いていることが分かる。設問の形式別で見ると、「選択式」・「短答式」において平均正答率が全国平均以上であった。「記述式」の問題は、全国平均とほぼ同等の結果である。無回答率が全国、県と比べ非常に低く、粘り強く学習に取り組む態度が育まれていると感じる。

課題として、「話すこと・聞くこと」における「話し手の意図を捉えて聞き、自分の意見と比べながら考えをまとめる力」を高めていくことが挙げられる。また、「書くこと」において、文章と図を結び付けるなどして必要な情報を見付けながら要約したり、自分の考えをまとめたりする力を伸ばすための指導を重点的に行っていくことが必要である。

質問紙での、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。」に対して肯定的な回答が多かった。

これまでに培ってきた国語と生活科・総合的な学習の時間を連携した“地域とつながる総合表現活動”による自分の考えや思いを伝えようとする力や主体的に学ぶ態度がよく育っていることが分かった。

②標準学力テストの結果から

標準学力調査(国語)(算数)(英語)でも、平均正答率が全国より上回り、成果が見られた。特に、国語では、全学年を通して、活用が全国平均以上であり、今年度の総合表現活動の取組がこれまでの実践にしっかりと積み重なった結果として表れている。

③昨年度の児童に行った実態調査から

3年生～6年生の児童を対象に行った主単元の学習事後アンケート調査の結果から、以下の内容で肯定的な回答が多かった。

- 授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作りだしたりすることができる。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。
- 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。

課題として、各学年の主単元の学習事後アンケートの結果から、児童が自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に進んで取り組むことができるように、探究課題との関わり方や出会わせ方を今後も色々な視点から工夫していくことが必要である。

④学習環境から

感染症対策のため、地域学習や他教科との連携が難しい中でも、学習スタイルを工夫しながら、児童は主体的に学習に取り組んでいる。全学年を通して、自分・学校・地域を意識した学習や毎年創立記念式典を児童発信のもと学校行事として行っている。これまでの“地域とつながる総合表現活動”の学習経験により、創立150周年を迎える学校への思いや伝統ある学校の節目の年を迎えることへの意識が育ってきている。

II. 研究内容について

1. 研究の目標

生活科・総合的な学習の時間において、地域とつながる総合表現活動を通して、共に学び、自ら探究する子どもを育成するために、どのような手立てが効果的か、実践を通して明らかにする。

2. 研究仮説

探究課題との関わり方や出会わせ方を工夫すれば、子ども一人一人が課題意識をもって主体的に探究活動を進めることができるだろう。

3. 研究の方法

(1)総合的な学習の時間・生活科を中心にしたカリキュラム・マネジメントの視点に立った単元作りを行う。

・昨年度の実践を生かしながら、学年ごとに授業研究を行う。

・各学年が単元構想図を基にした指導案を作成し、実践する。

(2) 総合的な学習の時間・生活科で試みた授業実践について、以下の方法で分析し、来年度の授業実践へとつなげる。(PDCAサイクル)

・児童への総合的な学習の時間・生活科に関するアンケート調査(2年～5年は、事前・事後アンケート実施)

(3) 校内の環境整備を行う。(学習委員会と協力)

・児童の表現の場が広がるように、校内の掲示環境を整備する。